

NPOと連携してコアジサシ営巣地を守る 森ヶ崎水再生センター覆蓋上部整備工事

受賞機関 東京都下水道局森ヶ崎水再生センター

事業の特徴

センター東施設の覆蓋屋上で、絶滅危惧 類の渡り鳥「コアジサシ」が営巣していることが発見されてから、コアジサシの保護を目的にNPOと協働で営巣地整備をした。

- ・事業実施期間 (1) 平成14年2月～14年3月26日
(2) 平成15年2月26日～15年3月28日
- ・事業費 25百万円

事業の概要と成果

コアジサシ保護のために、NPO、大田区（覆蓋屋上にスポーツ施設の計画をしていた）と下水道局で協議を行い、営巣した屋上（7.5ha）に、2.8haの営巣地を整備することとなった初めての試みである。平成14年度の整備は、2.0haを下水汚泥を焼却・成形した建材スラッジライト（茶色）を営巣材として使用し、表面を保護色（灰色）に近づけるため、貝殻を撒き、白ペンキで塗装などを行った。その結果、約2,000羽の飛来があり、思いもよらない大成功となった。平成15年度の整備は、残り0.8ha分と、平成14年度営巣の一部改良に、センター内の他工事で発生したコンクリート破砕材を加工し、コンクリート加

工碎石として営巣材に使用した。また、猫対策や、雨水の排水改善も加え、さらに作業として、平成14年度営巣箇所の草取りなども行った。

その結果、平成14年度の倍約4,000羽の飛来があり、内外から、さらに注目を受けるようになった。

この整備の取り組みは、平成14、15年度とも主体を下水道局が受け持ち、技術指導、調査などをNPO、敷き均しや草取りなどの作業を、ボランティアがNPOの指導で協力するといった分担で行った協働事業である。



NPOとの協働敷き均し作業



スラッジライト営巣地での抱卵

営巣結果（NPOの調査結果）

営巣内容	13年	14年	15年
飛来数	170羽	約2,000羽	約4,000羽
総営巣数	89箇所	1,224箇所	1,984箇所
総産卵数	240個	2,665個	4,013個
巣立ったヒナ数	5羽	606羽	約1,600羽
営巣整備面積	無	2.0ha	2.8ha